

地域の大学連携による学生の

国際キャリア 開発プログラム

国際協力、国際ビジネス、観光まちづくり、国際理解

グローバルなシゴトを目指す若者へ
参加者募集

国際キャリア開発特論

「自分を変えよう！世界を変えよう！」

仕事に必要な専門知識と問題解決能力を身につける

日時 2011年
2月16日(水)~19日(土)

参加費 10,000円

定員 60~80名 (先着順)

Schedule スケジュール

1日目 開講式
全体講義
●国際分野でのビジョン実現プロジェクト
(ロジカル・シンキング、建設的な批判、プレゼンスキル)
●コミュニケーションスキル
学生同士の交流会・フリートーク

2日目 全体講義
●安全管理とリスクマネジメント
(海外で働く、暮らすための安全情報の分析方法)
各講師の講義
分科会
講師との交流会・フリートーク

3日目 分科会
分科会発表準備
中間発表

4日目 分科会全体発表
総括・閉講式

実習国内・海外も
募集中



★申し込み方法

申込方法：申込フォームから (<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/>)
申込期間：2010年12月WEB申込開始予定
申込開始時期にメールマガジンで案内を致します！是非ご登録ください。

★問い合わせ先

宇都宮大学 国際学部
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL.028 (649) 5172
FAX.028 (649) 5171
E-mail kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

**作新学院大学 経営学部
研究棟302**
〒321-3295 栃木県宇都宮市竹下町908
TEL.028 (670) 3702
FAX.028 (670) 3702
E-mail kokusai@sakushin-u.ac.jp

**白鷲大学 教育学部
2号館319**
〒323-8585 栃木県小山市大行寺1117
TEL.0285 (22) 9874
FAX.0285 (22) 8989
E-mail shinkai@fc.hakuoh.ac.jp

会場 宿泊

栃木県芳賀青年の家



〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子4470 TEL.0285-72-2273
交通：宇都宮駅・小山駅から貸切バス

学生ファシリテーター大募集！一緒に合宿セミナーを盛り上げよう！

詳しい内容は
HPで！

ホームページでは随時「最新情報」をアップ↑しています。気になる人は今すぐクリック！

<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/>

国際キャリア開発プログラム

検索

→ 地域の大学連携による学生の国際キャリア開発プログラム



国際キャリア開発プログラムの最新情報や講師からのメッセージ、講演会や公開講義のお知らせをお届けします！（携帯、PC用）
*携帯メルマガ登録はQRコードから！

援助と人権保障

米川 正子 宇都宮大学 国際学部 特任准教授

分科会内容：

日本政府は政府開発援助（ODA）や国連平和維持活動（PKO）などを通して、援助を必要とする国々に協力をしていますが、その国々の中には独裁国家や市民の人権を無視したものも含まれています。また援助が人道支援や開発のために使われているどころか、ビジネス化している所もあります。我々の税金がそのように使われているのか、そしてそのような国々に対して日本政府はどう対処すればいいのか、分科会は検証をし提言します。

プロフィール：

南アフリカ・ケープタウン大学院で国際関係修士号取得。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）職員として、ルワンダ、ケニア、コンゴ民主共和国、ジュネーブ本部で勤務し、JICA（国際協力機構）本部で客員専門員（アフリカの平和構築）に従事。著書に『世界最悪の紛争「コンゴ」』（2010）など。

平和学・紛争転換・非暴力介入

奥本 京子 大阪女学院大学 国際・英語学部 准教授

分科会内容：

紛争を解決するのに軍事介入する「暴力的解決法」がありますが、それでは、プロセスも結果も持続的な平和とはいえず、大勢の犠牲が生まれてしまいます。平和的手段による紛争転換の手法を用い、身近なところから国際レベルの紛争までさまざまな紛争に非暴力的に「介入」することで解決・転換することを目指しましょう。構造・文化の変革の意味を具体的に検証し、共感、非暴力、創造性を活用することを、身につけませんか。

プロフィール：

神戸女学院大学院博士後期課程修了。TRANSCENDネットワーク、非暴力平和隊・日本、ACTIONネットワークのメンバーとして、紛争転換、非暴力介入、文学と演劇の活動と研究に励む。著書に『平和学を学ぶ人のために』（共著、2009）や『ガルトゥング平和学入門』（共著・翻訳、2003）など。

外国人観光客増加に向けた戦略策定

中島 洋行 作新学院大学 経営学部 准教授

分科会内容：

日本の外国人観光客のうち栃木県を訪れた割合は3.7%であり、これは全47都道府県中13位であります。日光という国際的な観光地を抱えるにも拘わらず低位に甘んじている現状を打破し、栃木県を訪れる外国人を増やすためにどのような戦略を立てればよいのか。分科会では、管理会計や経営学の分野で企業の戦略策定と遂行に役立つツールを活用しながら、課題の解決を目指します。

プロフィール：

会計ファイナンスコースで「管理会計論」などを担当。留学生教育に積極的に携わりとともに、学内の観光まちづくり研究会に所属。専門領域は管理会計と原価計算であり、とりわけライフサイクル・コストングに関する研究で多くの研究成果を残している。

アート活動を通じた森林保全

水谷 伸吉 一般社団法人 more trees 事務局長

分科会内容：

日本古来の豊かな資源である森―私達はこの森を活用しないまま、海外からの木材に依存し、他国での森林破壊を続けています。生活に密接に関わる森林問題について、日本、特に都市部に住む人々はどのようにコミットすることができるのでしょうか。当分科会では、音楽、アート、スポーツなど文化的活動を通じて、森林問題解決に向けた都市部と地方が繋がるような仕掛けを一緒に提案して行きます。

プロフィール：

慶應義塾大学経済学部を卒業後、株クボタで環境プラント部門に従事。インドネシアでの植林団体で、熱帯雨林の再生に取り組む。坂本龍一氏の呼びかけによる森林保全団体「more trees」の立ち上げに伴う。森づくりをベースとしたカーボンオフセットのほか、日本の間伐材利用促進なども手掛ける。

ミレニアム開発目標とジェンダー

大崎 麻子 開発政策・ジェンダー専門家

分科会内容：

2015年までに貧困削減を目指すミレニアム開発目標（MDGs）は、国際社会共通の開発フレームワークです。2010年9月に国連本部で開催されたMDGsレビュー・サミットでは、MDG5（妊産婦の健康の改善）が著しく遅れていると報告されました。また、貧困人口の7割が女性であると同時に、女性は社会・経済基盤の支え手でもあります。したがって、MDGs達成のためにはジェンダー平等の視点が欠かせません。MDGsが生まれるに至った経緯、そのベースとなる人間開発という概念を学び、MDGsで掲げられた開発課題をジェンダーの視点から考えます。また、取組み事例を参考にしながら、自分たちが起こせるアクションを計画していきます。

プロフィール：

アメリカ・コロムビア大学院で国際関係修士号を取得。UNDP（国連開発計画）本部開発政策局にて、ジェンダー主流化と女性のエンパワーメント支援に従事。関西学院大学客員教授、Take Action Foundation評議、東京都港区男女平等参画推進会議委員。

文化と開発援助

豊田 雅朝 開発援助分野のコンサルタント

分科会内容：

援助を実施するにあたり、相手の物事の背景、歴史、伝統などの理解が不可欠ですが、開発援助の文脈の中で文化が重視される機会は限られています。開発援助の分野で、文化はどのような位置づけ、役割、関わり、影響力を持つのか、フィリピンなどでの音楽活動の事例などを通して検証します。ひいては日本の文化とその活かし方、日本の開発援助や、参加者自身のアクションを考えていきます。

プロフィール：

イギリス・ニューキャッスル大学、フィリピン・アジア経営大学大学院で開発分野の修士号を取得。青年海外協力隊にフィリピンの音楽（チェロ）隊員として参加。国際協力銀行（円借款事業案件形成担当）や北海道大学（大学の国際化プロジェクト担当）に従事、約一年の世界放浪などを経験。

HIV／エイズと社会的キャンペーン

吉田 智子 サンスター株式会社 広報室

分科会内容：

HIV／エイズは、貧困を抱える途上国や開発の問題だと思われがちですが、日本にもHIVとともに生きる人びとが2万人あまりいます。そのことと向き合うことなしに、世界のHIV／エイズについて考えることはできません。自分たちの文化や社会、グローバルな政治や経済と向き合いながら、HIV／エイズという課題を自分自身が身近に捉え、さらに社会を巻き込んでいくために、どのような方法が可能かを一緒に考えていきましょう。

プロフィール：

ニューヨーク大学院で修士号（公衆衛生・国際保健教育専攻）を取得。国際移民機関（IOM）カンボジア事務所でのインターンシップを経験。日本初のエイズ・ユースフォーラム（2003）の立ち上げなど、若者向けエイズ啓発キャンペーンに関わりつつ、HIV／エイズに関する社会貢献および社内教育活動を提案。

国際医療協力と文化人類学

白川 千尋 国立民族学博物館 先端人類科学研究部 准教授

分科会内容：

開発途上国では、マラリアなどを始め様々な熱帯病や風土病が貧困問題を深刻化させています。これらの病は地域の文化の中でどのように捉えられ、社会に影響を与えているのか？また、病を解決するための医療協力を実施する場合、どんな視点を持って現地の人々に関わり、何を考慮して協力をすべきか？文化人類学的視点から、途上国の医療問題を理解し、何が出来るのか議論していきます。

プロフィール：

総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻で博士（文学）取得。青年海外協力隊員としてヴァヌアツでマラリア対策の活動に従事。WHO短期専門家（サモア・フィジー、フィリピン対策）、JICA短期専門家（ミャンマー、マラリア対策）を経験。専門は文化人類学。

学生感想

9月に開催された
国際キャリア開発基礎

私は将来、JICAなどの国際的な機関で様々な国の人々と共に活動したり、開発途上国で「弱者」として虐げられている女性や子供達の支援に携わる仕事をしたいと考えています。私の中の価値観は、今はまだ「統合されていない未成熟の価値群（Spiritual Small Stones）」です。これから積極的に新しいことに挑戦し、これらのバラバラな価値群を整理、統合させ、「Spiritual Back Bone（統合されているハイレベルの価値観）」の状態に変えていきたいです。（1年生）

今後の課題だが、まず職業選択ではなく、自己分析をしようと考えている。自分が今何が一番価値を置いているのかということ自分で理解することが大事だと思う。キャリアアンカーが8つに分かれるので、私は今どのキャリアを重点的に考えているのか自己分析を通して考えていきたい。そして、そのことをoutputして、友人たちと話し合い、自分にとって本当の価値というのを探していきたい。（3年生）